

CSR調達の推進

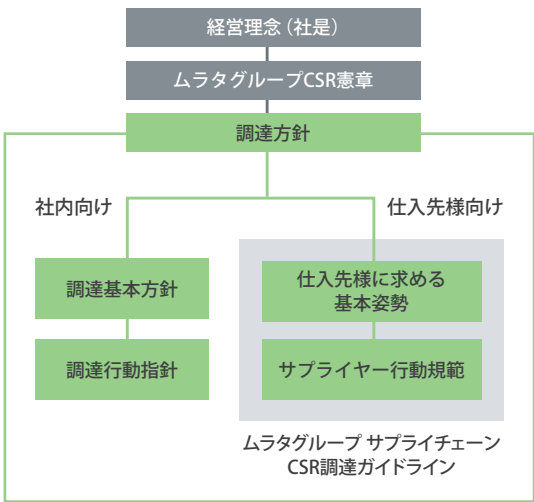
基本的な考え方

ムラタは「公平」「公正」「誠実」を基本とする調達方針にもとづき、サプライチェーン全体でESG（環境・社会・ガバナンス）の課題に取り組むことで社会価値と経済価値の好循環を生み出し、経営理念である「社是」に掲げる「文化の発展に貢献」したいと考えています。

社是をふまえ、当社で働くすべての従業員が遵守すべき規範として「CSR憲章」を定めています。これら上位方針のもと、仕入先様との強固なパートナーシップと長期視点での協力関係を築き、サプライチェーン全体で持続可能な社会の実現を目指すため「調達方針」を定めています。調達方針はムラタの調達活動の考え方や行動・判断基準を示した「調達基本方針」「調達行動指針」と、仕入先様に期待するCSRの考え方や行動・判断基準を示した「仕入先様に求める基本姿勢」「サプライヤー行動規範」によって構成されています。

ムラタは、仕入先様に調達方針のご理解と各要求項目の遵守をお願いするため、2020年に「ムラタグループサプライチェーンCSR調達ガイドライン(ガイドライン)」を制定し、仕入先様へ配付しました。2022年には、持続可能な調達に関する国際規格やお客様からの新たな要請に対応するため、本ガイドラインの第2版を発行しました。さらに調達方針の理解を深めていただくため、2022年3月から重要仕入先様のCSR実地監査(CSR監査)を開始しました。CSR監査およびセルフアセスメントから顕在化したリスクに対しては、仕入先様に改善を要請するとともに、必要に応じて改善に向けた支援も行っています。

ムラタは、今後も持続可能な社会の構築に向けて共存共栄を旨とした仕入先様との丁寧なコミュニケーションを実践し、サプライチェーン全体で社会的責任を果たすべく取り組んでいきます。



仕入先様への責任と行動（CSR調達の取り組み）の詳細はこちらをご覧ください。

[WEB https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/people/suppliers](https://corporate.murata.com/ja-jp/csr/people/suppliers)

CSRリスク評価と改善取り組み

目標値と2022年度実績

ムラタは、CSR 調達を推進するために2022年度～2024年度の目標値を設定し、調達方針に沿ったCSR評価の取り組みを行っています。2022年度は設定した目標値をいずれも概ね達成することができました。設定した目標値を達成できるように、引き続きCSR調達課題に対するリスクの低減を図っていきます。

KPI	2022年度～2024年度目標	2022年度実績
ムラタグループ サプライチェーン CSR調達ガイドライン 条項遵守契約率	グローバルで95%	96%
CSR評価の改善率	是正対象となった 仕入先様の改善率100%	90%
CSR監査の実施率	重要仕入先様 [※] への CSR監査実施率95%	100%

2022年度は、仕入先様へのCSR監査による確認に重点を置いてCSR調達の推進に取り組みました。この機会を通じて現場の方にも国際的な業界標準であるRBA要求に対する実態のギャップを認識いただくとともに、対応に不足のある場合は、改善の指摘や要請だけでなく、監査当日やその後の協議等で改善の支援を継続しています。

当監査をきっかけとしてRBA行動規範はじめムラタが仕入先様に求める行動規範に即した要求事項の遵守レベルが向上しており、結果として仕入先様のCSR遵守の意識向上とともに、ムラタのCSRリスクの低減にもつながっています。

※重要仕入先様の特定についてはこちらをご覧ください。▶



CSR評価プロセス

ムラタでは、仕入先様との取引開始時に「CSR同意書」を締結し、ガイドラインに同意いただくとともに、ガイドラインにもとづく「CSR遵守状況チェックリスト」によるセルフアセスメントを実施いただいています。取引開始後もムラタの調達方針やガイドラインの理解と浸透を図るとともに、セルフアセスメントを毎年継続して実施しています。

また、以上の結果やRBAの基準にもとづく取引額や商品機能における重要性などにより選定した重要仕入先様に対しては、セルフアセスメントに加えてCSR監査も実施しています。これらリスクの評価の結果はA～Cのランクに分類して管理することで、リスク顕在化の予防に努めるとともに、Cランクとなった場合はハイリスク仕入先様として管理します。

2022年度 CSR評価実績の詳細

1) セルフアセスメント

2022年度は、100社の仕入先様にセルフアセスメントを実施しました。これまでのところ致命的なリスクは確認されませんでした。また、継続したCSR監査も実施しています。

	対象	実施社数	是正対象件数	ローリスク仕入先様比率
2020年度	重要仕入先様	154	2	99%
2021年度		133	5	96%
2022年度		100	3	97%

2) CSR監査

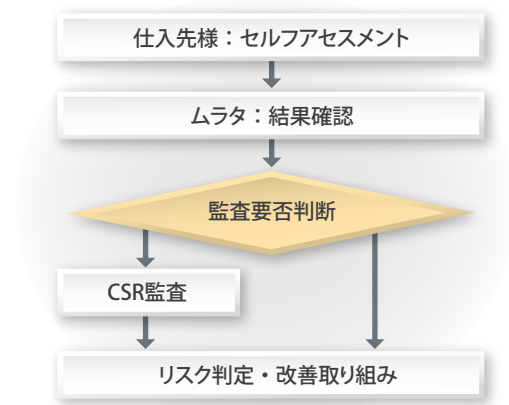
2022年度は、44社の仕入先様に監査を実施しました。CSR監査ではガイドラインにもとづいて遵守状況を確認し、机上での確認に加えて現場の確認や従業員へのインタビューも行うことで実態をより正しく把握することに努めています。

責任ある鉱物調達の取り組み

目指す姿と取り組み内容

ムラタでは、調達活動を通じて、人権、環境などの社会的責任を果たすため、武力勢力への資金供与、強制労働や児童労働を含む人権侵害、環境破壊、資金洗浄などの不正行為などにつながる鉱物資源を使用しないよう取り組んでいます。具体的には、

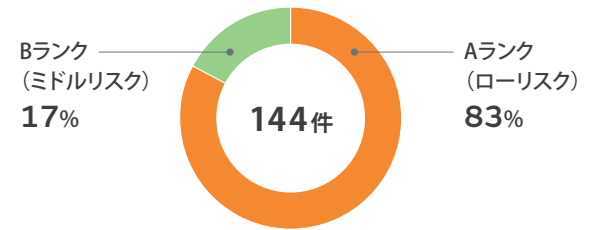
なお、評価結果のランクを問わず、明らかになった課題に対しては、改善を要請するとともに支援を行います。十分な改善がみられない場合には採用や取引継続について協議します。



これまでのところ重大なリスクは確認されていませんが、軽微な課題においても改善活動を実施していただきました。さらにCSR監査実施前には、仕入先様にガイドラインの提示やCSR監査に関する説明会を行い、監査前後でのQ&Aや改善取り組みの支援を行うことで、理解を深めていただいています。

このようにCSR監査の機会などを利用し仕入先様とともに労働（人権）・安全衛生・環境・倫理・サプライヤー管理や管理体制の各CSR遵守の取り組み強化に努めています。

2022年度CSR評価実績件数



「責任ある鉱物調達対応方針」を定めてOECDデュー・ディリジェンスガイダンスにもとづき評価（デュー・ディリジェンス）を行い、Annex II リスク^{※1}の低減に努めています。

サプライチェーン上の製錬・精製業者の特定にあたっては、業

界標準であるRMAP^{※2}に準拠した調査を行っています。回収した調査書はRMAP認証を取得した製錬所か否かをチェックするだけでなく、方針有無など管理体制についてもリスク評価を行っています。ムラタではさらに調査書にもとづいた評価に加え、実地監査による確認も行っています。評価の結果、リスクが高い製錬・精製所を使用していることが判明した場合は、そのリスク内容を仕入先様へ伝達するとともに、RMAP認証取得製錬・精製所への切り替えなどの要請をしています。

一方、ムラタはお客様から年間5,000件を超えるサプライチェーン

情報の提供要請を受けています。ムラタは仕入先様からの回答いただいた結果にもとづき、RMI (Responsible Minerals Initiative) が発行するCMRT (Conflict Minerals Reporting Template) および、EMRT(Extended Minerals Reporting Template)による報告を行っています。

※1 紛争地域および高リスク地域からの鉱物の採掘、取引、取り扱い、および輸出に関連して発生する可能性がある重大な悪影響のリスク。

※2 RMIが推進する精製所監査プログラム。

責任ある鉱物調達方針、OECDデュー・ディリジェンスガイダンス5ステップに準じた取り組みの詳細はこちらをご覧ください。▶



調査結果と課題

ムラタでは、最新のサプライチェーン情報を把握するため、仕入先様に対して定期的な調査を実施しています。これまでの紛争鉱物調査により当社の主力製品である積層セラミックコンデンサをはじめ、インダクタ、サーミスタ、セラミック発振子などは、すでにコンフリクトフリーであることが確認できています。

2022年度の紛争鉱物調査では、3TG^{※3}は160社に調査を実施し、回答率は100%となりました。コバルトは85社に調査を実施

し、回答率は89%となりました。

同調査の結果、RMAP認証製錬・精製所使用率は、全体で93%となりました。また実地監査で確認された、管理体制が十分でない仕入先様16社に対し、改善に向けた取り組みを行いました。今回の調査を通じてムラタでは、大きく分けて3つの課題を認識しており、それらの課題解決に向けた取り組みを進めていくことが重要であると考えています。

※3 スズ・タンタル・タングステン・金

2022年度 責任ある鉱物調達 調査結果

	金	スズ	タンタル	タングステン	コバルト	合計
RMAP認証製錬・精製所使用率	90%	96%	99%	92%	88%	93%

テーマ	課題	取り組み
①RMAP認証製錬・精製所使用率について	現時点で、RMAP認証製錬・精製所を使用していない仕入先様もあるため、当社のすべての製品においてAnnex IIリスクに関与していないことを保証することが難しい。	RMAP認証製錬・精製所を使用していない仕入先様への切り替え要求を継続して行う。サプライチェーンへのデュー・ディリジェンスが進んでいないと思われる仕入先様には、リスク評価の実践を要請していくことで、改善を促す。
②コバルト調査回答率100%に向けた取り組みについて	コバルト調査は法令対応ではないため、仕入先様から調査への協力が得られないケースがある。	仕入先実務担当者様向けの説明会の実施や説明資料の配布を通じて、取り組みの背景や重要性を十分に理解いただき、調査への協力を促す。
③仕入先様の紛争鉱物に関するデュー・ディリジェンスの実施について	紛争鉱物に関する強固な管理体制が構築されていないことで、サプライチェーン全体でのデュー・ディリジェンスが進まないケースがある。	書面での調査に加えて実地監査も行い、改善に向けたアドバイスが必要に応じて行うことにより、仕入先様の管理体制強化に向けたサポートを継続する。

業界活動を通じた課題への取り組み

ムラタはJEITA「責任ある鉱物調達検討会」、RMIなどの業界のイニシアティブである団体に属し、業界全体の仕組みづくりなど個社では限界のある課題に対しても積極的に取り組んでいます。

一例として、JEITA主催の「責任ある鉱物調達説明会」の運営に参加し、説明会を通じて多くの企業様と最新情報を共有し、取り組

みの重要性について理解を深めていただくよう、教育・啓発の活動を進めています。また、RMAPのサポートが効率的に進むよう、問題点の整理や仕組みの提案などをJEITAの検討会で積極的に議論し、RMIへ提言しています。